

各学校の教育課程の編成における 本カリキュラムモデルの活用のポイント

12 頁の 2 (2) の「多様な教育課題の教育課程上の位置付けの考え方」で示したように、シティズンシップ教育、食育、環境教育、日本の伝統・文化理解教育等といった多様な教育課題の指導は、学習指導要領に示されている各教科等の内容と関連させて実施することが前提になります。

そのため、本カリキュラムモデルでは、多様な教育課題の指導で扱う内容の教育課程上の位置付けについて、【学校必修】と【学校選択】の考え方を示しています。

- **【学校必修】** …全ての学校で各教科等の指導において学習する内容
- **【学校選択】** …学校の教育活動の特色化を図るための取組に位置付け、
【学校必修】 で扱う内容を広げたり深めたりして学習する内容

このことを基本に据えて、各学校では、特色ある教育活動を進めていくために創意工夫して教育課程を編成・実施していくことが求められます。

ここでは、各学校の教育課程の編成における、本カリキュラムモデルの活用のポイントを示します。

ポイント

①

多様な教育課題を【学校必修】〈標準授業時数内〉として指導するに当たって、どの教科等の内容と関連付けて実施するのか、また、どの時期に実施するのかといった、各教科等の年間指導計画を作成する際に、第2章で示した【学校必修】として扱っている、各教科等の年間指導計画例にある指導内容を参考にしてください。

ポイント

②

学校の特色化を図るために、多様な教育課題を【学校選択】〈標準授業時数内〉として総合的な学習の時間で指導するに当たって、年間指導計画や単元の指導計画を作成する際に、第3章で示した【学校選択】として扱う、総合的な学習の時間の「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」の中から、各学校が地域の特色や児童・生徒の実態に合ったカリキュラムを選択し、その年間指導計画例や単元の指導計画例を参考にしてください。

【カリキュラム・マネジメントを行うに当たっての留意事項】

1

カリキュラム・
マネジメントとは

学校教育の目標に向けて、カリキュラムを編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していく考え方であり、その手法です。

また、そのための条件づくり・整備であり、学校経営の中核に位置付くものです。

学校においては、カリキュラム・マネジメントの考え方を教員全体で共有することが重要です。

2

PDCAサイクルを
確立すること

Plan (①) - Do (②・③) - Check (④) - Action (⑤) のPDCAサイクルに、学校教育の質を向上させる観点から、Plan では、①学習指導要領を踏まえた重点指導事項例の提示、Do では、②教師が児童・生徒と向き合う時間の確保などの教育条件の整備、③教員の共通理解に基づいた教育課程の編成・実施、Check では、④教育成果の適切な評価、Action では、⑤評価を踏まえた教育活動の改善を取り入れることが大切です。

3

教育活動を全体的に
捉えること

学校には各教科等の指導計画や学級・学年における経営計画があり、また、道徳教育や人権教育、体育・健康に関する全体計画など、様々な計画が存在しています。

これらを束ねて教育課程全体を統括する機能をどのように創り出して維持していくかが、学校のマネジメントにおける重要な課題です。

そこで、教育課程全体を統括する機能を生み出し高めるために、まず、学習指導要領総則の内容を教員全体で共通理解を図ることが重要です。このような取組を行うことが、カリキュラム・マネジメントの環境を整える観点からも大切です。

4

カリキュラムを核に
協働すること

教員一人一人に、カリキュラム編成の主体者であるという意識を醸成していくことは、学校のマネジメントにとって大きな課題です。

そのための手だてとして、それぞれの学級経営が学年経営や学校経営との関係において、また、教科等の授業が学年や学校全体の教育活動と、それぞれ相互に結び付いていることを認識させる働き掛けや環境づくりを通して、教員の意識を向上させていくことが重要です。